

令和4年度第1回八街市総合教育会議議事録

期 日 令和5年2月27日（月）
開 会 午前 9時57分
閉 会 午前10時52分
場 所 八街市役所 特別会議室

出席者 (構成員)

市長	北 村 新 司
教育委員会教育長	加曾利 佳 信
教育委員会教育長職務代理者	山 田 良 子
教育委員会委員	並 木 光 男
教育委員会委員	吉 田 昌 弘
教育委員会委員	橋 爪 通 代

(出席職員)

副市長	大 木 俊 行
総務部長	片 岡 和 久
総務部総務課長	湯 浅 孝 史
教育委員会教育部長	土 屋 武 志
教育委員会教育部教育総務課長	秋 葉 忠 久
教育委員会教育部学校教育課長	本 間 照 美
教育委員会教育部教育センター所長	一 瀬 祐 彦
教育委員会教育部学校給食センター所長	岩 井 濟

(事務局職員)

教育委員会教育部教育総務課副主幹	塚 本 廣
------------------	-------

議 題 (1) ICT教育の現状について
(2) 学校給食の現状について

【会議概要】

教育総務課塚本副主幹

定刻より少し早いですが皆さま、お揃いですので、これより令和4年度第1回八街市総合教育会議を開会いたします。

本日の会議は、お配りしてあります会議次第に沿って進めさせていただきます。はじめに、北村市長より、ご挨拶申し上げます。

よろしく願いいたします。

北村市長

令和4年度第1回八街市総合教育会議を開催したところ、加曾利教育長をはじめ、委員の皆さまには、お忙しいところ出席いただきまして、ありがとうございます。

また、平素より、学校教育、社会教育、スポーツの振興に、ご尽力をいただき、心から感謝申し上げます。

直近の新型コロナウイルス感染症の感染者数は、金曜日が1名、土曜日が5名、日曜日は6名と感染者は低くなっておりますが、引き続き感染対策を全庁あげて努力していきたいと思っております。昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の対策を行いながら二十を祝う会の2部制の開催、第2回小出義雄杯八街落花生マラソン大会の開催、3年ぶりに開催されました第66回八街市ピーナッツ駅伝大会等が無事開催できました。特に二十歳を祝う会の大看板を三浦先生に作成していただきましたことに敬意と感謝をいたすとともにご報告します。また、教育委員会や実行委員のご努力により無事盛会裏に開催されたことにつきましてお礼を申し上げます。

また、小出義雄杯八街落花生マラソン大会におきましても、多くのボランティア、協賛企業からの応援と、警察署員、多くの関係者の力添えにより開催できましたことをお礼申し上げます。3年ぶりに開催されました第66回八街市ピーナッツ駅伝大会につきましても、襷をつなぐという大きな目的の中でしっかり選手が努力されたことに感謝いたします。

さて、昨年度の会議におきましては、「スクールバスの運行について」及び「通学路の安全対策について」を、委員の皆さまから、貴重なご意見をいただきありがとうございました。

本年度の会議は、「ICTの教育の現状について」及び「学校給食の現状について」を議題としております。

本日の会議におきましては、教育委員会との意見交換をさせていただく貴重な場と考えておりますので、よろしくお願い申しあげて、挨拶といたします。

教育総務課塚本副主幹

ありがとうございました。

続きまして、加曽利教育長よりご挨拶をお願いいたします。

加曽利教育長

本日は、北村市長をはじめ関係の皆さまにご出席くださいまして誠にありがとうございます。また、市長部局の皆さまには、日頃から教育委員会に対しまして、特段のご理解、ご支援をいただいておりますことに対しまして、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

さて、本年度もコロナ過での対応に苦慮することからスタートした1年でございました。その中において学校教育では、近い将来八街市を支える人材作りをテーマに掲げ、ICT教育環境の充実や工夫した活用を取り入れることで、主体的に学習を取り組み、他者と意見交換をしっかりとできる児童、生徒の育成に取り組んでまいりました。また、社会教育関係では市民の多様化、複雑化、高度化する様々な問題解決に動きを置いて、市民サービスの充実に取り組んでまいりました。教育委員会全スタッフの並々ならぬ尽力によって本年度のすべての事業が終わることができそうです。ようやくコロナも落ち着き従前の事業が展開できるのではないかと期待を持っているところでございます。今後も市長部局の皆さまの力強いご支援をお願い申し上げます。本日は非常に重要な議題や報告がございます。よろしくようお願い申し上げます。

教育総務課塚本副主幹

ありがとうございました。

続きまして、議題に入りますが、八街市総合教育会議運営要綱第3条の規定により、「会議の議事進行は、市長が行う。」となっておりますので、議事進行を北村市長をお願いいたします。

北村市長

それでは、八街市総合教育会議運営要綱第3条の規定により、会議の議事進行を務めさせていただきますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

議事に入ります。

はじめに、「ICT教育の現状について」を議題といたします。事務局より説明をお願いします。

本間学校教育課長

はじめに、本市のGIGAスクール構想について、説明をさせていただきます、その上で「電子黒板の活用と効果」について更に説明をさせていただきます。

それでは、A3サイズのカラーの資料をご覧ください。まず、GIGAスクール構想とは、1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育I

ＣＴ環境を実現すること。また、これまでの教育実践と最先端のＩＣＴのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出すことです。八街市では、資料中央の赤枠・赤文字の部分、今までの学びとＧＩＧＡスクール構想を掛け合わせ、いわゆる「学びのモデルチェンジ」による学力の向上に令和２年度から、取り組んでいます。探究のプロセスにおけるさまざまな場面において、ＩＣＴを効果的に活用し、学習指導要領に示された「知識・技能の習得」や「思考力・表現力・判断力の育成」「学びに向かう力や人間性の涵養」といった学力の向上につなげていきます。そのためのＩＣＴ環境整備として、①の高速大容量の校内無線ＬＡＮや②の一人一台タブレット型パソコン端末といった「学校での活用」をはじめ、「持ち帰りによる家庭学習、学校の臨時休業に伴う学習」「他校や地域社会との連携」にも備え計画的に整備を進めてきました。２枚目の資料は、令和４年度の環境整備と活用のスケジュールです。１枚目の資料の番号と項目が一致しています。整備だけでなく、研修や行事等の活用も実施しています。今年度末に⑧の電子黒板１６０台の購入により、普通教室及び特別教室への整備が完了します。

それでは、「電子黒板の活用と効果について」説明をします。資料は、Ａ４サイズのものであります。

本市が整備を進めている電子黒板は、パソコンを接続することなく、電子黒板本体のみで、パソコンと同様の操作が可能な上に、資料の拡大縮小、ペンでの書き込み等の機能が使えるものです。６５インチ型液晶モニターのタッチパネル式タイプです。１つめに、電子黒板の活用についてです。デジタル教科書、インターネットによる検索資料等の提示が大画面にそのままできます。教師は、今まで紙で作成していた教科書の拡大コピーなどを準備する必要はありません。インターネット上にある豊富な画像や動画を提示することができます。児童生徒と画面の共有、いわゆる「ミラーリング」という活用方法で、児童生徒のタブレットの画面を電子黒板に移すことができます。複数の児童生徒を並べて表示もできます。逆に、教師の画面を全員のタブレットに映すこともできます。ペン機能は、付属の電子ペンを使って画面上に、フリーハンドで書き込みができます。色や大きさなども豊富に選べます。電子黒板に提示した資料や児童生徒の考えに、電子ペンで書き込みながら説明ができます。インターネット上にある動画視聴も、グループアプリの活用についても、電子黒板単体でインターネット環境に接続していま

すので、パソコンの接続なしで可能です。さらに、電子黒板の画面は、「スクリーンショット」すなわち写真として保存し、いつでも見返すことができます。過去の授業の振り返りや遅刻や欠席した児童生徒への支援にも役立ちます。

2つめに「電子黒板の効果」について説明します。

視覚的効果による児童生徒の集中力や理解力等の向上

大画面の鮮明な色彩の映像、わかりやすいアニメーションや 動画資料、ミラーリングによる一人一台端末への画面の共有などにより、集中力が高まると同時に、理解力の向上につながります。例えば、小学校算数の「コンパスや分度器の使い方」の学習では、動画で繰り返し確認しながら学ぶことができます。

効果的な資料の提示

デジタル教科書やインターネット上には、豊富な画像や動画がありますので、授業の目的に応じて、学習効果の高い資料を選び、多数提示することができます。

授業準備、説明等の時間短縮、働き方改革

スクリーンショットを活用して、前時の学習内容を画面に写した振り返り、デジタル教科書を使った説明等、授業準備の時間や説明の時間が大幅に短縮できます。子供と向き合う時間の確保や働き方改革につながります。

児童生徒の学習状況の把握、個に応じた支援

ミラーリングを活用して、クラス全員の画面を電子黒板に表示することで、教師は教室を歩き回ることなく、児童生徒の学習状況を正確に把握することができます。今まで以上に興味関心や習熟度に合わせて個に応じた支援をすることができます。

児童生徒の活躍の場、自己有用感・自己存在感の醸成

一人一人の学習状況が把握できるようになると、全ての児童生徒に活躍する場や認められる機会が増えます。教師や友達から認められることにより、自己有用感や自己存在感の醸成が期待できます。

先ほども触れましたが、現在160台の追加購入を進めており、市内小中学校の普通教室及び電子黒板を必要とする特別教室すべてに年度末には、整備が完了することになります。

北村市長

それでは説明が終わりました。まず最初に私から質問させていただきます。

昨日の防災訓練において、八街南中学校の日暮さんに生徒代表で訓練の講評を

行っていただきました。講評を聞いていると、的確な表現と思いがが伝わってきて、みなさんからお褒めの言葉をいただきました。日頃の本人の努力はもちろん、先生方のご努力に改めまして感謝し、素晴らしい教育を行っていると感じました。

また、電子黒板については、素晴らしいこれからの教育方法ですが、室生犀星が、常日頃「ふるさとは遠きにありて思ふもの」というような、思いを持てる子供になってもらいたいと思いますが、このあたりの相関関係をお願いします。

本間学校教育課長

常に電子黒板のみで授業を進めることではなく、授業の中で活用する道具で、電子黒板を使って有効な授業を行っております。これまでのより人とつながりを深めるような授業は継続してまいりますので、児童生徒とまったく会話がなくなることはありません。

北村市長

I C T教育については、素晴らしい教育方法と思いますが感性を大事にしながら行っていただきたいと思います。

他にご意見はありませんか。

加曾利教育長

八街市の学校関係は、近い将来八街市を支える人材作りをテーマに掲げており、八街市を意識した子供たちの発想を大事にするようにしており、市長からお褒めの言葉をいただきましたが、昨日の日暮さんの講評で自分が八街市の人間として防災に対し、地域のために役に立ちたいという表現は、八街市を意識した学習成果だと自信が持てました。電子黒板の導入については、今までの方向性を変えるわけではなく、今までやっていた八街市を大切にしながら学習するというスタイルは変えずに、効率的に学んでいくもので、学びのモデルチェンジとありますのは、今までの学習を否定するものではなく、上乘せしてチェンジしていくというように考えていただければと思いますので、電子黒板については期待するところです。

北村市長

他にご意見などありますか。

山田委員

教育委員会では1年間をとおして、学校施設を訪問し児童生徒や学校の様子を拝見させていただいております。G I G Aスクール構想で八街市の潤沢とはいえない予算を教育費に充てていただいたのに、見合った成果や結果が伴わないことが心配でありました。八街市のI C T教育は、近隣だけでなく国内でも進んでいると思います。各学校を訪問して思いますことは、電子黒板などをかなり積極的に使いこなしていて、学校格差もなく、ベテランの先生方も使いこなしており、子供たちも鉛筆で勉強しているのと同じようにコンピューターや電子黒板を使い

こなしている様子が、この1年間強く感じられました。先ほど北村市長が子供たちにふるさとを思う心を育てたいということでしたが、パソコンが教育現場に入ってきたときに私は、疑問に思ったところです。しかし八街市の現状を見て見ますと、各学校の校長先生の強いリーダーシップのもとに、ふるさとを思う人間性を育てるという事を念頭に置きながらICT教育を進めているなど強く感じました。学校格差がないことも非常に感激したところです。各学校職員構成も様々で、どの先生も前向きに電子黒板を使いこなし、先日教育センターを訪問し教育センターの指導のもとに各学校、先生方の指導や取り組み方などサポートを行って行くことも要因だと思いました。もう一つは繰り返しになりますが、学校格差がないことです。八街市の全体の学校が一丸となってICT教育を進めることで人間性を育てるという教育を、今まで以上に心にとめて学校運営をしていかなければならないと、どの校長先生もおっしゃることで。八街を思う心を育てる、人を思いやる心を育てるといような教育を八街市の学校全体が目標としていると感じました。今、ICT教育の現状を見ていて、これ以上にICT教育は進んでいくのではないかな感じました。学力向上についてですが、ICT教育が進んで行くことによって一部の学校の学力向上に数字として結びついております。これは非常に先生方にとっても励みになると思います。現状の感想を述べさせていただきました。

北村市長

山田委員から八街市の財政状況が厳しい中でもICT教育の取り組みを行っていることにお褒めの言葉かなと思います。その辺について担当はどう思われますか。

片岡総務部長

GIGAスクール構想については、まだ導入してから日が浅いと思いますが、ここまで有効に活用できている事は、八街市としても十分効果があったとと見え、導入についての決断は正しかったと思います。

北村市長

ふるさとを思う心を育てる教育については

本間学校教育課長

近い将来八街市を背負っていく人材作りについて、まず八街市のことを知ること、八街市のことを好きになること、様々な道徳を含め、常日頃各学校の教職員が八街市の良さをICTを使って教えるのではなく発見させるという取り組みを行ってきたところです。

北村市長

先日、朝陽小学校からの寄付金贈呈式の際、児童から八街市を愛しているという表現を何度も発言されて、子どもたちの代表から「どの街にも1つは欠点があ

るはず。だからこそ完璧に近い、もう成長できないくらいまですてきな街にできるようがんばりたい」と発言され、八街市を愛する気持ちが伝わってきました。日々の学習の成果や教職員の取り組みの結果だと感じました。

他に何かございますか。

吉田委員

電子黒板やICTの使い方として、運動会のライブ配信や様々な学校との交流、千葉工業大学の月食ライブ配信がありました。実際このような機材を使わないとできないような教育をしていると思います。また、海外との交流ということで、対面でできないようなこともでき、八街市が全世界に発信していくことができることが整ってきていると感じます。このような成果や期待があるということを理解いただければと思います。

北村市長

吉田委員の発言に感想はありますか。

本間教育課長

学校の中だけではできないことが多く、子どもたちが楽しめている目をしているとも大きな収穫だと思います。

北村市長

他に何かありますか

土屋教育部長

国際交流という面では、八街中学校とインドネシアの中学校とがインターネットで交流を行った後に、ジャワ島西部地震が発生し、子供たちが考えお舞金を送りたいと、募金活動を行いました。今子供たちがインターネットを通じて世界中に繋がり、世界の状況を知りながら、自分たちで何ができるのかを考えているのだと感じております。

北村市長

他に何かありますか

大木副市長

児童生徒に対する1人1台のパソコン配付や電子黒板については、県内でも先進的な取り組みと聞いておりますが、残念ながらこれを知らない市民の方が多くいらっしゃると思います。少しPR不足ではないかと思います。良い事例ですので報道に流すとか、市民の方々によく知っていただいた方が良いでしょう。

北村市長

その辺はいかがでしょうか

一瀬教育センター所長

積極的に取り組んでまいりたいと思います。

北村市長

報道等に発信するようにお願いします。

加曽利教育長

ただいま国際交流という広い分野でのお話がありましたが、欠席が多い児童生徒達、また新型コロナの関係で学校に来れない児童生徒達が、授業を教室からライブ配信して自宅で授業に参加しているということもございます。非常にそのあたりも含め長欠対策として学校に行きたいという気持ちの育成など効果的であると考えます。

北村市長

ただいま加曽利教育長からお話がありましたが、ライブ配信により授業に参加できるということで、長欠の児童生徒に対してもプラスに働くのではないかと思います。

他にご意見はございませんか。

ご意見がないようなので、続きまして「2. 学校給食の現状について」を議題とします。事務局の説明を求めます。

岩井学校給食センター所長

議題（2）学校給食の現状につきましては、2点ご説明させていただきます。ひとつ目は、給食の賄い材料費についてでございます。資料の2ページ、3ページ「給食の賄い材料費について」に沿って説明いたします。

学校給食の実施に要する経費につきましては、学校給食法で、その負担区分が定められており保護者に負担いただく給食費は食材の購入費としてのみ使われており、その他の学校給食の施設整備や運営にかかる経費は自治体が負担しています。

資料の「1. 学校給食費の状況」をご覧ください。本市の給食費につきましては、平成18年度に額を改定して以降、平成26年に消費税分を改定し、月額、小学校4,430円、中学校5,060円としてから、食材価格が上昇する中、献立の工夫や食材選定による費用の抑制など、様々な努力により、給食費を据え置いたまま、給食の提供を続けており、印旛郡内の市町の中で、最も低い額を維持して、保護者の負担軽減に配慮しているところです。しかし、令和2年以降、長引くコロナ禍や社会情勢の変化などで、食材料の高騰が続き現在の給食費では、給食の栄養と量を保ちながら提供することが困難となってきました。

資料の「2. 栄養価の状況」をご覧ください。学校給食に供する食物の栄養内容につきましては、学校給食摂取基準に定められており、その運用にあたっては、児童生徒の個々の健康や生活活動などの実態、地域の実情などに十分配慮し、弾力的に運用することとなっているものですが、近年では、摂取基準を100パーセント満たすことが困難な傾向にあり、令和4年度の月別平均摂取率を見ますと、エネルギーに関しましては、中学校の6月の時点で、89.6パーセントと低い

摂取率となりました。しかし、今年度につきましては、7月から国の新型コロナウイルス感染症地方創生臨時交付金の活用により、学校給食食材料高騰対策事業として、食材料の価格高騰分、約11パーセント、18,611千円を充てることで、エネルギーの摂取率は、小学校で、最大97.6パーセント、中学校で、最大96.0パーセントになり、保護者負担を求めず、令和2年度の水準と同程度の給食の提供が可能となっています。

今後も物価の上昇が続く可能性が高く、給食への影響が避けられないこと見込まれるため、緊急的な物価高騰対策として、令和5年度の新年度におきましても、食材料の価格高騰分、約10パーセントを、4月から9月分までの賄い材料費について、市の予算で対応することとしました。10月以降の賄い材料につきましては、食材料の価格上昇が、依然として進行しておりますので状況に応じて補正予算の要望を検討してまいります。

資料裏面の「3、令和5年度の賄い材料について」で記載していますが、仮に、賄い材料費へ10パーセントの支援を一年間継続した場合、年間給食費小学校一人当たり、48,730円から53,603円、中学校一人当たり55,660円から61,226円相当の賄い材料費として使用できることとなります。

つづきまして、二つ目は、令和5年4月から実施の第3子以降の学校給食費無償化制度について説明致します。

資料4ページ、5ページを参照願います。

八街市立小学校、中学校、における第3子以降の給食費無償化は、多子世帯の子育てに対する経済的負担を軽減するため、当該児童生徒の学校給食費を無償化するものです。

八街市では、給食費の無償化を減免により実施する考えであり、対象要件として、次にあげる4つの要件をすべて満たしていることが必要になります。

1つ目は、保護者が3人以上扶養していること。

2つ目に、その扶養している子のうち、上から数えて3番目のお子様が、八街市立の小学校、中学校において給食の提供を受けていること。

3つ目に、保護者が扶養している子と生計を一にしていること。

4つ目に、生活保護、就学援助制度等の他の制度で給食費の支援を受けていないこと。

この4つの要件となります。なお、扶養の要件には、第1子の年齢制限は設けておりません。免除の対象額は、八街市立小中学校に通う第3子以降の学校給食費、月額、小学生4,430円 中学生5,060円でございます。

次に実施方法ですが、保護者の方からの申請により受付を行います。要件を満たす保護者の方は申請書を提出していただき、要件等を確認した後、決定通知書を各世帯に郵送いたします。実施の時期は、令和5年4月分の給食費から実施い

たします。

資料の5ページをご覧ください

今回の事業による対象の人数は、小中学校合わせて、3,917人中694人、対象の給食費は、3千531万6千円です。本事業には千葉県が第3子以降の給食費無償化を実施する市町村に対して、費用の2分の1を補助する「千葉県公立学校給食費無償化支援事業」を活用する予定ですので、市負担額は、1千765万9千円となる見込みです。

次に申請受け付けの時期は、令和4月初旬に市内小中学校に通う児童生徒の保護者宛にお知らせし、受付を開始します。なお、年度途中の申請につきましても、随時受け付けてまいります。

また、第3子以降の学校給食費無償化の実施に伴い、八街市学校給食費徴収規則の一部改正及び実施要綱の制定をおこないました。

最後に、周知については、保護者宛の通知のほか、広報誌、市ホームページの掲載や、各学校ホームページの掲載、メール配信など、ご協力を得て、対象の保護者の方へ漏れることの無いように周知してまいります。

以上で「議題(2)学校給食の現状について」の説明を終わります。

北村市長

はじめに、私から2点お伺いします。現状の八街市の給食費は印旛郡内で最も安価な額となっておりますが、その八街市の努力について保護者への周知はおこなっているかが1点と、第3子以降の学校給食費無償化制度につきまして保護者に十分な周知をお願いしたいのですが以上2点お伺いします。

岩井学校給食センター所長

まず現状の給食費については、印旛郡内で最も安価な額となっております。賄い材料が高騰している中、本年度から国の臨時交付金を活用し、賄い材料費の助成を行っており、引き続き令和5年度においても実施する予定です。このようなことにより現状の給食費を維持していることについては、広報誌、市ホームページ、給食だよりを通じて周知していきたいと思えます。また、第3子以降の学校給食費無償化制度につきましては3月中旬頃から保護者宛の通知のほか、広報誌、市ホームページの掲載や、各学校ホームページの掲載、メール配信などにより、しっかり周知を行っていきたいと考えます。

北村市長

本来、賄い材料費は保護者負担が原則ではないですか。

土屋教育部長

賄い材料費は原則保護者負担です。しかし一部市町では給食費の全額無償化を実施しております。この流れは、小さな市町で移住促進の意味で実施している経緯となります。印旛郡内については動向を注視しておりますが、人口が増加傾向

の団体もあり、そのような団体は、給食費の値上げの動きもあります。これだけ八街市が安価な給食費を維持できるのは北村市長のご努力もあって、令和5年度上半期分についても賄い材料費の補助を行っていただきますが、このままいくと下半期も不足が生じる可能性があります。このような努力のもと現状の給食費をなんとか維持している現状です。このようなことから今後の給食費をどうしていくかというのは課題だと思います。

加曾利教育長

教育長会では給食費についての話題はです。印西市、白井市は来年1年間周知期間を取って令和6年度から値上げをしたいという意向を持っています。四街道市は令和5年度から値上げをするという情報があります。他の市町については本市と同様に現状の給食費では厳しく、市町から助成をいただくか値上げしかないという見解でございます。

橋爪委員

私自身、小学生の保護者ですが、印旛郡内で一番安価な給食費だということは、説明を受けるまでは知りませんでした。保護者の立場であればありがたいと思います。今後給食費の無償化となれば、財政面での厳しさもあると思いますが、ありがたいという思いもあります。それ以前に給食自体がありがたいと思います。

北村市長

他にご意見有りませんか。

大木副市長

給食費の値上げについて、八街市としては、子育てしやすい町を目指しております。どこまで頑張れるかわかりませんが、第3子以降の無償化も進める、市民がコロナ過で苦しんでいる中で値上げというのは難しいのではないかと思います。どこまで市として補助できるかわかりませんが八街市が子育てをしやすい町だとPRできる事だと思います。

土屋教育部長

副市長のお考えは非常に勇気づけられてありがたいのですが、令和5年度1千万円補助していただきました。今の状況から考えると下半期もう1千万円補助していただかないと不足が生じます。そうすると令和6年度もそのような補助を行っていただかなければなりませんので、その辺もふまえながら給食センター運営委員会での議論もしていこうと思っております。

財政的な問題もありますので、今後も給食費については教育委員会だけではなくご指導いただきながら進めて行ければと思っております。

北村市長

財政担当の総務部長いかがですか。

片岡総務部長

現状、印旛郡内で一番安価な給食費とのことですが、印旛郡内の市町の動向も注視し、いろいろな方の意見をいただきながら適正な額を検討していただければと思います。

北村市長

子育てしやすい町と言うことについては、今後も努力は重ねなければなりませんので総務課長如何ですか。

湯浅総務課長

気になるところはエネルギーの摂取率は、他市町と比べてどのような状況ですか。

岩井学校給食センター所長

基本的には100パーセントが望ましいのですが、他市町の状況を見ますと概ね97パーセント程度で、八街市においては年度当初90パーセントとかなり低かった状況です。

湯浅総務課長

私の孫が小学生におりますので栄養価については気になるところで、給食費が安価なことは良いことだと思いますが、それによって栄養価が不足してしまうと、その当りも加味しながら検討していただきたいと思います。

土屋教育部長

給食費については市の方針であると考えますが、私の子供は小学4年生ですが7月ぐらいから給食がだいぶ変わったと話していて、だいぶおいしくなったと子供が喜んでおりました。副市長がおっしゃったように、コロナ過により今、値上げは難しいと思いますが、このまま市の方から補助をいただき続けることは考えて行かなければならないと思いますので、引き続きご相談していきたいと思ひます。

北村市長

最終的にはお金ではなく、子供達の栄養価を保つことが基本だと思います。その辺を考慮しながら議論していただければと思います。

他にご意見がございましたら、お願いします。

それでは、ご意見も出尽くしたようですので、議事を終了させていただきます。

皆様の意見につきましては、今後事務を進めていく中で改めて市長部局と教育委員会とで一体となって様々な課題を関係機関や関係各課等と協議していきたいと思ひます。

円滑かつ有意義な会議運営にご協力をいただきありがとうございました。

これにて進行を事務局へお返しいたします。

教育総務課塚本副主幹

ありがとうございました。

会議次第5、その他でございます。皆様から何かございますか。よろしいでしょうか。

それでは以上をもちまして、令和4年度第1回八街市総合教育会議を閉会いたします。

本日は、ありがとうございました。